



極東大学の考古学博物館の
展示風景

ウラジオストクの旅(二)

アルセーニエフ博物館は市街中心部にあり、かつて日本の正金銀行が入っていたビルを利用したものです。町並にとけ込み、うっかりすると通り過ぎてしまうような何気ないたたずまいです。入って右側が歴史部門、左側が自然部門です。歴史部門の常設展示は渤海・女真などを中心にした考古資料、極東の少数民族の民族学的資料、古写真を多用した帝政・ソヴィエト時代の市民生活の三部構成で、全体としてウラジオストク地方の通史を指向したものと思われまます。

企画展も開かれていました。一つは初代の知事の生涯を通してシベリア・沿海地方の開発の歴史をたどるもの、もう一つはウラジオストクで半生を送ったアメリカ人女性カメラマンの作品を中心に、ウラジオストクの市民生活の移り変わりを回顧するものでした。別棟の国際展示センターではご当地出身の名優ユール・ブリンナーをしのぶ写真展が開かれていました。この博物館は展示施設としての

使い勝手は良くないでしょうが、広く明るいスペースに豊富な実物資料がゆったりと展示されています。私としては考古関係の展示スペースが少ないのが物足りなく思われました。近くの極東大学の考古学博物館は考古資料の展示が大変充実しており、渴きを癒すに十分でした。

博物館の分館として、著名な歴史上の人物であるアルセーニエフとスタノフの旧宅が保存公開されています。それぞれに女性の館長と一人の館員が常駐していて、私たちに熱心に説明してくれました。サモワールで入れたお茶とクッキーが出され楽しい一時を過ごしました。

二十九日午後は郊外の巡検に行きました。行く夏を惜しむ市民で賑わう海水浴場を抜けて海岸線を周回、さらに、兵器・弾薬庫の跡が見え隠れする荒野の凸凹道を突進し、遙かに外洋と国境の山々を望む草原状の山頂の要塞跡に立つことができました。平和な海水浴場とかつての日本軍の侵攻に備えた難攻不落の要塞群の対比に本当に感慨無量でした。私とソコロフさん(アルセーニエフ博物館館長)は「日本海を平和の海に」と言って固い握手を交わしました。

(甘粕館長の館長日記は今回が最終回です)

収蔵資料紹介

松ヶ崎患水吐破損所より新潟湊迄取縮め鹿絵図 (沼垂町役所文書)

この絵図には、江戸時代の松浜(北区)付近から新潟湊(中央区)迄の阿賀野川・信濃川と、その周辺部が描かれています。赤色は長岡藩領、黄色は新発田藩領の土地を、緑色は浜や砂丘地の緑地を示しています。

松ヶ崎掘割が決壊して、阿賀野川の河口が現在地になったのが享保十六(一七三二)年です。旧阿賀野川(通船川)の川幅は狭くなり、川跡は田畑や住居になりました。松ヶ崎決壊後に掘られた水路もすでに埋まっています。

したがってこの絵図は、安永二(一七七三)年に再び旧阿賀野川を掘り替えた後の様子とみられます。太い黒線は川の付け替え時に築かれた土手です。

絵図には、延宝期(一六八〇年)頃と思われる阿賀野川・信濃川の川岸が朱線で記されています。両川は新潟町寄りで合流し、海に出ていました。また、「古新潟町跡」や「古湊」という記載から延宝期以前の新潟・沼垂の痕跡などもわかり、両町が大きく移動したことが理解できます。



つまりこの絵図は、一六〇〇年代から一七〇〇年代の間の阿賀野川と信濃川の変化を描いているのです。

長谷川 伸(はせがわしん 学芸員)

【たいけんのひろばプログラム】

楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申し込み・対象 参加費
5月16日(日) 14:00~15:30	みなとびあで 自然を感じてみよう	みなとびあの敷地で季節 をさがしてみよう。	不要・無料
5月23日(日) 14:00~15:00	ふろしきでつつもう	ふろしきで、いろんなもの を包んでみましょう。	不要・無料
5月29日(土) 14:00~15:00	牛乳パックで イタワセ	「イタワセ」という船を、牛 乳パックを使って作ります。	不要・無料
6月5日(土)・6日(日) 14:00~15:00	紋切りをしてみよう	江戸時代に流行った紋切 り遊びをしてみましょう。	不要・無料
6月26日(土) 14:00~16:00	針穴カメラを つくろう、撮ろう①	針穴カメラをつくってみ ましょう。	必要(6/15日) 200円
6月27日(日) 14:00~16:00	針穴カメラを つくろう、撮ろう②	針穴カメラで、いろいろな ものを写してみましょう。	同上 2回連続プログラム
7月4日(日) 14:00~15:30	草花あそび	いろいろな草花を使った 遊びをしましょう。	不要・無料
7月10日(土) 14:00~15:00	布をおってみよう	あまり布を使って、裂き織 りのコースターを作ります。	必要(7/2日) 無料
7月18日(日) 14:00~15:30	むかしの遊び	むかしながらの遊びをた いけんしてみましょう。	不要・無料
7月24日(土) 14:00~15:30	土器をつくってみよう	土器をつくってみましょ う。	必要(7/14日) 500円
7月31日(土) 14:00~15:00	あかりを つくってみよう	手作りで明かりをつくっ てみましょう。	不要・50円

お申込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。(※日は必着です)
プログラムは予定となっています。詳細は、当館までお問い合わせください。

次回企画展

企画展「海峡を越えて―新潟と佐渡―」

明治以降の佐渡と新潟市の関わりを歴史的に検証するとともに、現在の佐渡の魅力を伝えます。

【会期】2010年7月17日(土)～8月29日(日)

休館日：7/20・26、8/2・9・23・30

【観覧料】

	個人	団体/前売
大人	600円	480円
大学・高校生	400円	320円
中学・小学生	200円	160円

※中・小学生、土日祝日は無料

※企画展観覧券で常設展示もご覧いただけます。

博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマを、
毎月第4日曜日にお話しします。

時 間：13:30～15:00

会 場：本館2階セミナー室

申込み：当日受付、先着50人 資料代：100円

■ 5月の講座：5月23日(日)

「佐渡と観光」講師：伊東 祐之

■ 6月の講座：6月27日(日)

「新潟のおみせやさん」講師：土田 可奈

現在開催中企画展

三芳悌吉生誕100周年記念

「砂丘物語原画展 ― 画家三芳悌吉が描いた1910年代の新潟市 ―」

新潟市に寄贈いただいた三芳作品の中から、大正期の新潟市での日々の生活や当時の世相を少年悌吉の目を通して描いた『砂丘物語』の原画を展示します。合わせて、歴史資料や作中に登場する民具なども展示します。

【会期】2010年4月24日(土)～6月13日(日)

休館日：4/26(月)・5/6(木)・10(月)・17(月)・24(月)・31(月)・6/7(月)

【通常観覧料】

	個人	団体/前売
大人	600円	480円
大学・高校生	400円	320円
中学・小学生	200円	160円

※中・小学生、土日祝日は無料

※企画展観覧券で常設展示もご覧いただけます。

【展示解説会】

毎週日曜日14:00～(30分程度)

申込み不要(※企画展観覧券が必要です)

時間までに企画展示室へお集まりください。

【関連企画】『砂丘物語』を語り・歩く一読書会と探訪一

内 容：『砂丘物語』について語り合い、作品の舞台を歩く

日 時：(読書会) 5月30日(日) 14:30～15:30

(探訪会) 6月12日(土) 14:00～16:00

定 員：10人 ※両日参加できる方

申込締切：5月21日(金) (必着)

参加費：無料

※『砂丘物語』をお持ちの方は、読書会にご持参ください。

会 場：セミナー室(読書会)

申込み：電子メールか往復はがきにて

①名前 ②住所 ③連絡先電話番号 ④企画名

を記入して、当館まで。

博物館を支えるモノ・もの

高所作業車

みなとびあ展示室は、天井までの高さが4.5メートルもあります。この高さを生かして巨大な絵図や漁網などを展示したこともあります。

天井が高いため、照明器具を取り付けたり、ライトの向きを変えたりする作業には危険が伴います。みなとびあでは開館時にバッテリーを備えた電動の高所作業車を導入して、高いところの作業を安全に行っています。

編集
後記

今回の特集は、新旧館長による対談記事です。対談は大変盛り上がり、2時間にも及びました。両館長の見識の広さ、深さが伝わる対談となっています。特集2は現在開催中の「砂丘物語展」についての記事です。ぜひ一読ください。

川岸の景観もさらに美しくなりました。春の花々とともに、皆様のお越しをお待ちしています。(土田)

■ お問い合わせ・申込みは博物館まで・・・

新潟市歴史博物館みなとびあ

住所：〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10

TEL: 025-225-6111 E-MAIL: museum@nchm.jp

休館日：毎週月曜日、祝日の翌日

開館時間：9:30～18:00

